奄美パークがオープン

情報発信基地に期待

総事業費76億円 奄美の郷や一村記念美術館等

県が大島郡笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設を進めてきた「奄美パーク」がこのほど完成、9月30日、現地で関係者らが出席し、式典と祝賀会があった。式典には須賀龍郎県知事をはじめ奄美群島広域事務組合管理者の平田隆義名瀬市長、施工業者ら約250人が出席、代表者らによるテープカットが行われたほか、全員で園内の各施設を見学した。

完成を祝いテープカットを行う須賀知事ら＝大島郡笠利町の奄美パークで

「奄美パーク」は、県が総事業費76億円をかけて笠利町で整備を進めてきた奄美群島全体の新たな観光拠点施設で、園地面積は約7・3㌶。園内には総合展示ホールや奄美シアター、イベント広場などからなる「奄美の郷」（RC造2階一部W造延べ約3200㎡）と、晩年を奄美で過ごした孤高の画家、田中一村の作品を展示する「田中一村記念美術館」（RC造平屋建延べ約2000㎡）のメーン施設のほかに、多目的広場や野外ステージなどを備えている。

記念式典で須賀龍郎県知事は「奄美パークを観光の拠点施設とし、群島各地との連携を図りながら国内外に向けた情報発信基地となることを期待している」と式辞を述べた。また「建築・設備・展示部門」の32社、「展示部門」2社、「公園工事部門」の56社に感謝状の贈呈があった。テープカットに続いて施設見学会があり、島崎総園長の案内で出席者らは「奄美の郷」や「田中一村記念美術館」などを見て回った。

県技術士会青年部

ビジネスモデル特許を

かごしま技術21

県技術士会青年部（中俣敏朗委員長）は9月29日、鹿児島市のステーションホテルニューかごしまで今年度第1回「かごしま技術21」を開き、同会技術士で㈱富士通鹿児島インフォネットの福永正システム事業部長（情報工学部門）と東中益男同webビジネス課長（情報工学部門）が「インターネットがビジネスを変える」題して講演した。

冒頭、稲田博会長が「まさにIT時代のまっただ中にある。世の中の進歩は速く、目まぐるしいが、本日の研修を業務に活かして頂きたい」と挨拶。

福永氏は、「ITは技術士の道具であり、どう使いこなすかによって成果が変わる。人・物・金は経営資源の重要なキーワードだが、これに情報（収集と分析・活用）と時間（スピード）が加わった。仕事の仕方を変えなければやっていけない。商品のソフト化が進み、ソリューションをいかに提供するかがコンサルタントの仕事になっている。そこで重要なのはビジネスモデル特許であり、特許を取得していないと他社にまねされてしまう。コンサルタント業務に特許という要素を取り入れるべきだ」などと話した。

東中氏は、ITビジネスの最前線についての事例紹介やe-japan構想のうち2003年度を実現目標とする日本のIT社会、ブロードバンド等について説明した。

今年で4回目となる同社の奉仕活動には社員ら約20人が参加。集合場所の松元町役場で中村社長は「あくまでもボランティアではあるが、参加した個々人が、やって良かったという感動の気持ちを持てるよう手を抜かずに作業してほしい」と挨拶。

この後、ブラシ、タワシ、紙ヤスリ、ホウキ、洗剤、ホースなど、いわゆるトイレ掃除の七つ道具を軽トラックに積み込み、5班に分かれ、平野岡運動公園、入佐、四元地区公民館近くの公衆トイレなどへ向かった。

各現場では、まずトイレの天上、壁の埃（ほこり）を取り払い、汚れた便器を丁寧に磨き、床の拭きそうじまで行った。

ITをテーマに開かれた第1回かごしま技術21＝鹿児島市のステーションホテルニューかごしまで

県砕石協同組合連合会

新製品開発へ研究進む

道路基盤骨材「調整土砂」

県砕石協同組合連合会（中西伸一会長）は、資源の有効活用や地球環境保全の観点からシラスに代わる道路用基礎骨材の新製品「調整土砂」の研究を行っている。13年度内に成果を確立するとともに製造工場のリスト上を作成、14年度から県内全域の会員工場で製造・販売を開始する意向。

同製品は県砕石協組連の新骨材委員会（横山弘人委員長）が中心となって製品化に取り組んでいるもの。原料は、砕石工場で発生する副産物の「れき混じり土石」（スリ）、従来は、林地・田畑・宅地等の造成工事や港湾工事の埋立工事や仮設道路工等に使用されていたが需要は少なく、各工場では滞貨して置くしかなかった。この「れき混じり土石」を砕石プラントで加工することで、盛土工、築堤工、路床・路盤工、置換工、遮断層工等に活用できるシラス代替品として強度の高い道路基礎骨材へと生まれ変わらせた。

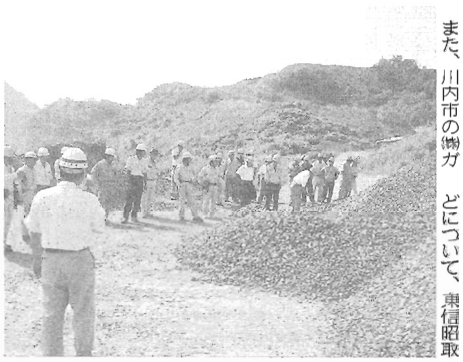
新製品「調整土砂」の特徴は、①品質管理が簡便であり、均一な品質が確保でき支持力比が大きい②耐久性に富み、経済的に県内各地で入手可能である③適合含水比が低く、敷水量が少なく、作業効率が良い④砂質土に比べて雨水等による流失や砂塵の発生量が少ない―など。

9月21日には、会員各社から44人が参加し、日置郡吹上町の南州砕石㈱吹上工場と川内市の㈱ガイアテック岩元工場の先進製造現場で研究会を開催。南州砕石㈱吹上工場では、切羽部分で「れき混じり土石」を採取する様子やストックしてある新製品「調整土砂A80」（80・0㎜）を見学し、試験施工した現場写真など資料による説明を受けた。

壽福久雄南州砕石㈱取締役製造部長は、「れき混じり土石は、現在、工場内に約200万立方㍍堆積している。これを原料として砕石プラントを使い、1次破砕、2次破砕、インパクト、細割の製造ライン過程で製品化している。今年、県や町の現場で試験施工を行い、高い評価をいただいた。1日の生産処理能力は約3000立方㍍。発注者ニーズにより、製品規格サイズはフレキシブルに対応できる」と説明。参加者は「立派な新製品だ。これなら申し分なく道路工事の基礎骨材に利用できる」と感想を語っていた。

また、川内市の㈱ガイアテック岩元工場では、新製品「調整土砂A150・A120・A80」等の製品規格、モデル施工、原料の採取現場や製造ラインなどについて、東信昭取締役製造部長や田之上弘明工場長から資料等を用いて詳細説明の後、参加者から質疑応答により参加者の理解を得た。

今後のスケジュールとして寄骨材委員会では、13年度内に製品規格、品質基準、製品強度等について試験結果をまとめ、また、製造工場リストをまとめる予定。それらの資料データ等を使って、発注官庁等にPRし、平成14年度からの公共事業への本格採用を目指している。



会員らが多数参加した研究会＝吹上町の南州砕石吹上工場で

中村商会が清掃奉仕活動

公衆トイレを美しく

㈲中村商会（本社・伊集院町、中村好勝社長）は9月29日、日置郡松元町内で公共施設のトイレ清掃ボランティア活動を行った。

出発を前に注意事項を聴く参加者＝松元町役場で

UM 言葉のブランド UM
梅彦の建材・道具用機械工具
●ティル・大理石用接着剤 UMボンドフィラー、樹脂モル
●モルタル・接着増強剤 モルダインWD・3000
●クレタン塗膜防水剤 ウシダック、シンプルカラー
■UM天然石材
■梅彦の壁紙材
ロダイヤ使用 超母島砂壁仕様 XGLハイブリッドシリーズ
エコマーク商品に認定されました。
内装用仕上材
●砂壁R-サンド ●あら聚楽
●UMけいそう土シリーズ
地肌に・ロダイヤ配合仕上材(中塗タイプ) ボードに一発仕上げができる 表化形けいそう土 エコ・スペーサー
株式会社 梅彦 本社 〒530-0015 大阪市北区中崎西3丁目3-6 TEL：06-6377-3500 FAX：06-6377-3501
株式会社 財部建材店 本社 〒890-0056 鹿児島市下荒田4丁目8-14 TEL：099-251-8628 FAX：099-251-8631